



琴崎宮

平成二十八年
復刊号

神馬
記念大祭年式七千七百
氏郎健山瀧奉納

宮司	白石 正典
禰宜	野村 好史
権禰宜	藤野 勝也
全	荒木 睦美
全	白石 治宣
全	松永 賢治
全	白石 貴浩
全	畑中 憲一
事務主任	渡辺 美知子
用務主任	橋本 栄子
総代会長	光井 一彦
責任役員	一同
常任総代	一同
崇敬会会長	兼広 三朗
皇道会会長	藤里 忠雄

残暑お見舞い

申し上げます

〒755-0091

山口県宇部市上宇部
大小路

琴崎八幡宮社務所

TEL (0836) 21-0008

FAX (0336) 31-9618

URL <http://kotozaki.com>

発行人 白石 正典

編集人 松永 賢治

印刷 児玉印刷株式会社

題字 石川習字教室

石川 華泉



御挨拶



琴崎八幡宮

宮司 白石 正典

まず以て、この度の熊本地震・大分地震の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

皆様方には平素より琴崎八幡宮の諸祭事につきまして格別なる御篤志をお寄せ頂いておりますこと誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて平成二十年に主祭神 應神天皇御崩御壹千七百年式年大祭奉賛会を結成し、元宇部市長・参議院議員の二本秀夫様を名誉会長に、また宇部興産株式会社の竹下道夫社長様（当時）を顧問のひとりに、また（株）ファーストリテイリング（ユニクロ）会長兼社長の柳井正様を發起人のひとりに迎え、記念事業でありました御本殿及び神輿、御神具修復、駐車場、御旅所、参集殿の整備、もみじ苑造苑等の工事が完了し、平成二十二年十月十五日に壹千七百年式年大祭、平成二十五年十月十五日には記念事業竣工奉告祭が滞りなく斎行され、この間第六十九代横綱 白鵬が正式参拝されましたことをご報告いたしますとともに、格別のご厚情により御奉賛賜りました氏子・崇敬者の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

現在に残りました御神符守札授与所の改築、式年大祭記念誌の発行に着手しているとあります。また人口減少社会の将来を見据え、現在敬神婦人会・崇敬会青年部の結成も視野に入れております。また平成三十年には明治元年に京都伏見稻荷大社より琴崎八幡宮境内に御勧請された琴崎稻荷神社の御鎮座百五十年祭が斎行されます。現在記念事業として狛狐設置・境内のバリアフリー化・日本庭園造園・社殿、境内のLED化等を計画致しております。ご参拝の皆様には完成までの間、多々ご迷惑ご不便をおかけ致しますが、今後ともご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

この度、約四十年ぶりに社報「琴崎宮」を復刊することになりました。当時私は奉職したての頃で隔世の感がありますが、人々の神社に対する想いは何ら変わっていないと思います。馬齢を重ねたこれからは先賢から学んだ事を次世代の神職に確実に引き継いでまいりたく存じます。

結びに当たり氏子崇敬者の皆様方には琴崎八幡宮御祭神の御加護の下、日々お健やかに過ごして頂きますよう心からお祈り申し上げます。

「琴崎宮」復刊にあたって



総代会会長

光井 一彦

四十年近く前に「琴崎宮」という社報があった事は、私にとって只々驚くばかりでした。月に一度開催される職員会議の場で若い神職から社報を発刊してはという提案があり、白石宮司より先々代の第二十二代宮司 白石正宮司つかみの時代に「琴崎宮」なる社報を発刊していたという事実を聞き復刊の段取りになった次第です。

私が琴崎八幡宮に奉仕する様になった切っ掛けは平成二十二年、会社の大先輩である前総代会長の椎名定雄さんからの責任役員就任の要請によるものでした。爾来、平成二十四年には総代会長に、今年平成二十八年には山口県神社総代会会長に、また神社本庁の代議員・評議員となり神社と深い関わりになりました。

この間、琴崎八幡宮では主祭神であられる應神天皇御崩御壱千七百年式年大祭を斎行し様々な祭事・記念事業を取り行ってきました。この社報「琴崎宮」の復刊もその事業の一環であります。

その間、私の方針である

みんなが参拝したくなる神社、みんなが集まる神社

に少しずつ近づいているのではないかと考えております。

神社を取り巻く環境は年々厳しくなっています。しかしながら日本人には神様や皇室を尊ぶ心を生まれながらにして持ち合わせています。宮司、神職、職員、総代会、崇敬会、皇道会（神道家の会）、すべての関係者が心を一つにし神社の隆昌のために邁進すれば、神社に参拝し神様を敬う心が再興すると確信しています。皆で頑張りましょう。

最後に皆様にお願いがございます。

「日本人の精神」こころについて各人の考えをお聞かせ願いたく存じます。将来的にまとめ上げ一つの文集にする計画をしています。宜しくお願い致します。



祭典記録

節分祭

一月下旬より、福豆の手詰め作業を職員総出で行い、一万袋以上をご準備し、三回の豆まき用、十二回の無料頒布用の仕分けも終え、二月三日節分に節分祭が厳粛に執り行われました。

九時半より本殿にて節分祭、続いて十時より演舞場前にて古守札、縁起物等のお焚き上げを行う「大かがり火」の点火式、諸行事として、朝八時より相生殿前にて福豆の無料頒布、九時より夢くじの頒布、甘酒の無料接待、近郊の料理屋さんによる恵方巻の販売も行われました。節分は春夏秋冬の最終日に当たり、季節の最後の日に当たり

ます。次の日から春が始まるため、第二の新年ということから厄除、八方除け、星祭などの御祈願の方々が多く御参拝いただいております。

十一時半、十四時半、十六時半より行われた豆まきも、晴天にも恵まれ、過去最高の人数にお集まりいただき、参拝者の方々が一喜一憂されながら賑やかに拾われておりました。袋いっぱ



いに拾われた方、あまり拾えなかった方、様々でしたが皆さん楽しそうにご参加いただきました。開始時間が全て「半」となっているのは、福豆の無料頒布が毎正時となっている為、より多くの方々に福豆を持つて帰っていただくようにとの配慮です。福豆の無料頒布には、毎正時の十五分前辺りから行列が出来始め、正時直前には手水舎の辺りまで行列が続いております。年末より持ち込まれた古守札、縁起物等は演舞場を埋め尽くし、かなり多くの参拝者の方々が去年一年間お参りされたことを物

語っていました。その大量の古守札等を朝早くからシルバー人材センターの方々が焼却の櫓に積み上げられ、今年も山のようになぐと積み上げられ、点火された炎は空高く舞い昇り、二月の冷たい周囲の空気を温めていました。

来年、再来年とまだまだ賑やかなお祭りをするため、職員一同知恵を出し合い、皆様がお楽しみいただけるように努力していく所存でございます。

権瀬宜 藤野 勝也

琴崎稻荷神社例祭

平成二十八年三月十一日曇天の中ながらも多くの方にご参列いただき、午前十時より琴崎稻荷神社の初午祭が斎行されました。今年は社の正面を彩る朱塗りの鳥居五基と幟旗二十二本を崇



敬者各位より御奉納いただき、より一層華やかな雰囲気の中で、厳肅に祭典は斎行されました。しかし残念ながら途中よりにか雨が降り出してしまいました。が、その中にあつてもご参列いただいた皆様、席を立たれる方は一人もなく最後まで厳肅に祭典を執り行うことが出来ました。誠に有難うございました。

さて、来たる平成三十年に琴崎稻荷神社は御鎮座一五〇年を迎える事となりました。それに伴い記念祭並びに記念行事を執り行う為、先日準備委員会を発足致しました。記念事業の内容は今のところ

- 一、狐の像建立
- 二、稲荷神社周辺の境内整備
- 三、境内のバリアフリー化
- 四、社務所横に池を含めた日本庭園の整備

等が具体案として出されています。つきましては稲荷大神様への崇敬の念篤く常日頃よりお参りいただく皆さま、またこの記念すべき一五〇年の節目を寿ぐ祝典行事にご賛同いただける皆さま、ぜひ御奉賛の程宜しくお願い申し上げます。

権欄宜 荒木 睦美

春季祖霊祭

三月二十日、皇道会春季祖霊祭が斎行されました。祭典では、正面に据え立てられた神籬に皇道会々員代々の御祖たちの御霊を招魂し、祭員、参列者共々、祖先への感謝の気持ちを捧げ、これからも見守りいただきますよう厳肅に斎行致しました。また、皇居の皇霊殿で行われる春季皇霊祭を大前を通して遙拝し、当日は皇道会々員をはじめ、多くの方にご参列を賜り、結びに至るまで滞りなくお納めすることができました。

当宮では毎年、この春分の日に春季皇霊祭を斎行し祖先神への感謝の念を捧げております。この春分の日とは「自然をたたえ、生物をいつくしむ」とされる国民の祝日ではありますが、かつては春季皇霊祭という祭日で

あり現在でも宮中では春季皇霊祭が行われ、神武天皇をはじめ歴代天皇・皇族の御霊がお祀りされております。戦後占領下でGHQが皇室によって日本がまとまっているのを脅威に感じ、皇室と国民を分断するために名称を変えたのであります。

古来から、我々日本人の考える「御霊」は、我が家、我が国土に留まって、祖先の神と共に、生みの子の繁栄を見守り、子孫からの祀りを受けるとされます。日本人として此の世に生まれ出でし人々すべては、祖先の神より御霊を戴いて、やがて祖先の神のところに帰るのであります。



こうした考えのもとから受け継がれてきたものが祖霊祭であります。日々、毎年の祭祀、こうした感謝の気持ちを大切に、また、忘れずに「日本人の心」として今の世代が守っていかねければならないのであります。

権禰宜 白石 貴浩

春季大祭 献茶式

去る四月十五日（金）十時より御本殿におきまして、厳肅に春季大祭が斎行されました。当日は、晴天の穏やかな気候に恵まれ、また鎮守の杜の木々たちには青々と若葉が生い茂る中での祭典となりました。

この御祭は、秋季大祭、新嘗祭と共に琴崎八幡宮の三大祭であります。御本殿の御扉を開けての御祭は、一年にこの三回だ



けとなっております。また、春季大祭は祈年祭とも称されます。春の初めに当たって日本人の主食である米をはじめ穀物の豊穰と諸産業の隆昌を祈るとともに、氏子・郷土ひいては国家の安泰を祈願する御祭です。そして秋に至ってその豊作や幸福を神様に感謝を捧げる新嘗祭の大祭に

安産祈願 戌の日表

8月8日(月)・20日(土)
9月1日(木)・13日(火)・25日(日)
10月7日(金)・19日(水)・31日(月)
11月12日(土)・24日(木)
12月18日(日)・30日(金)

繋がる御祭なのです。そのような御祭に一神職としてご奉仕できることに感謝するとともに、誠心誠意お仕え申し上げました。そして十一時から献茶式が斎行されました。本年は、表千家同門会宇部地区のご奉仕でした。本殿内の静寂の中、丁寧な、また正確な動きで、御手前をいただきました。濃茶、薄茶の順番で、御神前に無事献茶するこ

とができました。
最後になりますが、総代会長、責任役員をはじめ、総代の方々、議員の方々をはじめとする御来賓の皆様方、大変多くの方々にご参列賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

権禰宜 畑中 憲一

男性の厄年 生まれ年 (数え年)								
25歳			42歳			61歳		
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成5年	平成4年	平成3年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和32年	昭和31年	昭和30年
女性の厄年 生まれ年 (数え年)								
19歳			33歳			37歳		
前厄	本厄	後厄	前厄	大厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成11年	平成10年	平成9年	昭和60年	昭和59年	昭和58年	昭和56年	昭和55年	昭和54年

宇部

宮地嶽神社例祭

去る、六月十五日（水）、琴崎八幡宮末社、宇部宮地嶽神社の例祭が厳粛にして盛大に斎行されました。当日は御祭神のご加護を賜り、お陰さまで天候にも恵まれて平日ながらも約四十名の来賓、常任総代の皆様にご参列賜りました。また今年は江島潔参議院議員・国土交通大臣政務官にも直々にご参列いただきました。

長陽雅楽会の奏でる雅楽の調べの中、官司以下神職参進。官司の祝詞奏上に続き官司以下来賓、常任総代玉串拝礼。祝詞の中では国家・国民の繁栄と氏子・崇敬者の弥栄を祈念申し上げました。

宇部宮地嶽神社は明治四十三年、福岡県福津市に鎮座致しま

す宮地嶽神社の総本社から御勸請致しました。さらに昭和六十一年、再度総本社より御勸請し現在に至っております。福徳開運・商売繁盛・家運隆昌・諸難除去に御利益のある御祭神、氏子・崇敬者より広く慕われています。 権瀬宜 松永 賢治



横綱白鵬

正式参拝

去る平成二十四年十月二十八日、大相撲宇部場所（巡業）に際して第六十九代横綱 白鵬が琴崎八幡宮大前に玉串を献り正式参拝されました。当日は大横綱を一目見ようと沢山の氏子・崇敬者が境内を埋め尽くしました。

権瀬宜 松永 賢治



総代会清掃奉仕

琴崎八幡宮では毎月末最終火曜日午前八時より総代会主催の清掃奉仕が行われております。

総代は元より地域の老人クラブ、職員を含めた毎回多数参加をいただき約一時間皆で汗を流しております。

去る三月二十四日は通常の清掃奉仕に加え年度末ということ



もあり、抹茶の拝服席を設けご参加の皆様へ一年間の感謝の気持ちを表しました。

今回、この拝服席を設けるにあたり春休み中ということもあり地元、上宇部中学校の茶道部の部員の方々に協力いただきました。お茶の接待の傍ら茶道についてのクイズや紙芝居など楽しい企画がなされ皆を喜ばせました。

尚、清掃奉仕はどなたでもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。

神道豆知識

Q、神宮大麻って
ご存知ですか？

A、神宮大麻とは
皇大神宮
（天照皇大神宮）の
御神札です。

天照皇大神宮とは、
太陽の神様です。

私たち、日本人は、太陽があるおかげで、春夏秋冬の四季を楽しめます。

私たち、日本人は、太陽があるおかげで、自然の恵みを頂いて生きています。生きているというより、生かされております。つまり、太陽はなくてはならないもの。時には猛威を振るう自

然ですが、たくさんの恵みを与えてくれる自然。この世にあるものは、全て自然からの賜り物。食事の前に、『いただきます』と言うのもたくさんさんの恵みを与えてくださった自然の神様にいただきます。と言う意味です。

昔から日本人は自然に対して祈りと感謝を捧げてまいりました。各家庭で祈りと感謝をすることの大切さを伝えていくために、神棚に御神札を祀りましょう。



御神札をおまつりすることは『日本人の心』を継承することです。御神札は、三重県の伊勢神宮（正式名称は『神宮』）で、一体一体奉製されています。

新年には、神棚に新しい神宮大麻をおまつりし、ご家族の幸福と日本の平和を祈りましょう。

権瀬宜 白石 治宣

私の八幡さま

1

西村 ミヨ子

二年前に失いかけた私の命を繋ぎ止めて戴けた此の身。思いもよらない奇跡と丈夫な体と健脚を授かり毎日六十四段の石段を手摺りを使うこともなく八幡様へ参拝させて頂ける幸せを一日も忘れることなく喜びで一杯の昨今でした。

そんな私に突然神職様から「琴崎宮」へ寄稿して貰えないだろうかとの言葉を頂き、厚かましくも言下に承諾をして仕舞いました。それと申しますのも八十五歳にして大腸癌の手術を受ける身と成りましたが結果が常識では考えられない回復で、術後十日目に退院の許可が出されました。執刀医のお言葉によれば「永い年月積み重ねた努力は無駄になっていませんでした。院内でも常によく歩いておられ感心しておりました。だから高齢者にしては類を見ない程の回復です。」とのことで有難くて嬉しくて改めて神様の御加護に心から感謝致しました。それからの私は欠かすことなく参拝させて頂いているうちに益々畏敬の念が強まり、まさしくタイトル通りに私の八幡さまに思われるようになりました。

祖父母の代から氏子でもあり幼少時には父親に背負われて大祭には必ず参拝させて頂いておりました。しかし長じて他県での生活が多くなり永い年月疎遠になっておりましたが、五年前から縁あつて八幡さまの近くに住む身となり人生の終盤にさしかかつてなお、幸いにも足を運ばせて頂ける事ができて何よりの生きがいとなりました。その上、私の体験談を聞いて下さる人が沢山でき、今では一緒に参拝できる迄になりました。この上ない喜びと幸せで一杯です。一人でも多くの人々に信仰の素晴らしさを伝えていきたい一念でこの作文をお引き受けしたものの気持ちの万分の一にも満たない愚作に終って仕舞いました。今年米寿を迎えた私に命を繋いで戴いたことは「何かせよ」と神様からのお諭しであろうとの思いに至り筆を執った次第です。

人間は自分の力で生きているのではなく、神様から尊い御加護を戴きながら生かされていることを有難く素直な心でお受けするような人間に成るべきであり、細やかでも人のお役に立つことが出来る老後を送りたいものであると常々強い思いを抱いている私です。サア明日もまた「私の八幡さま」へお参りさせていただく事を楽しみに筆を止めさせていただきます。



毎朝、感謝の誠を捧げる西村さん

皆様の寄稿を心よりお待ちしております。寄稿
ただけます方は原稿を社務所までお持ち
ください。



壺千七百年式年大祭



竣工奉告祭

平成25年10月15日

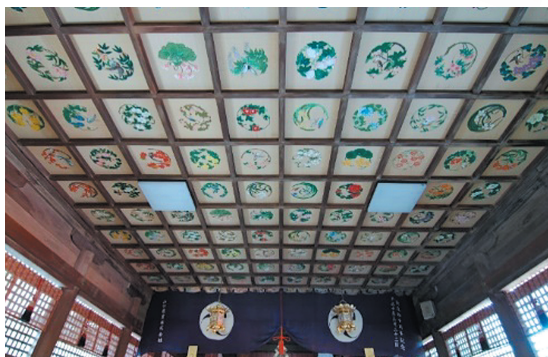




記念事業



77年ぶりの御輿修復



天井絵の奉納 浦 利治 氏



「琴崎八幡宮物語」発刊



もみじ苑 造苑
奉納 中村 一栄 氏



参集殿 改装



「宝物等調査報告書」
作成



音楽劇「琴崎の杜ものがたり」上演
平成26年 8月10日 於 渡辺翁記念会館
昼夜二回公演 2000名動員
欄宜 野村 好史
権欄宜 白石 治宣
全 松永 賢治
全 白石 貴浩
特別出演 女優 藤田 三保子
タレント 西村 知美



駐車場整備



伝統ある八幡宮で

日本ならではの結婚式を



新郎新婦が一心同体となり、偕老同穴の契りを結ぶ人生で最も慶祝すべき儀礼。神聖な夫婦の契りを琴崎八幡宮の大前で結び固めてみませんか？お申込み、お問合せは社務所まで



古来の「神前結婚式」

御初穂料七万円

略式の「結婚奉告祭」

御初穂料二万円

年間祭事日程

一月一日	零時	歳旦祭
一月三日	十時	元始祭
二月節分	九時半	節分祭
二月八日	十時	針祭
二月十一日	九時半	紀元節祭
旧暦初午の日	十一時	稻荷神社例祭
春分の日	十一時半	春季祖霊祭
四月十五日	十時	春季大祭
全	十一時	献茶式
六月十五日	十一時	宮地嶽神社例祭
八月一日	十時	夏越大祓式
九月一日	十一時	薬神社例祭
秋分の日	十一時半	秋季祖霊祭
十月十五日	十一時	秋季例祭
次の日曜日	十四時	御神幸祭
十一月月上旬	十時	新嘗祭
十二月二十三日	九時半	天長祭
十二月三十一日	十八時	大祓式

【退職職員】

巫女 井上 紀子

(平成二十八年三月三十一日)

編集後記

万緑の琴崎の杜を窓越しに眺めながら筆を執る。この度約四十年振りに社報「琴崎宮」が復刊した事を率直に嬉しく思う。手元に残る色褪せた旧「琴崎宮」中には既に故人となられた方々もおられるが、書かれた文章から篤い敬神の念が伝わってくる。また同時に不慮の事故により旧「琴崎宮」を絶筆にせざるを得なかった故百済権欄宜の無念さも胸に迫ってくる。

神社も時の流れのなかで時代に即した形に変化してきている。しかし今も昔も変わらぬものはなにか。それは敬神の念ではなからうか。日の出前から一日も欠かさず参拝に来られる方を見るにつけその敬虔さに圧倒される。我々神職にとり氏子・崇敬者はその姿を通して神社のあるべき姿を教え導いてくれる何にも替え難い良き「先生」である。神慮を畏み祖訓を継ぎ琴崎八幡宮の「灯」を大切に末永く守って行きたいと思う。

権欄宜 松永 賢治